

●炭焼き体験 窯開き かなり上手な木炭の出来栄

自力で炭焼き体験を行って5年目になります。この5年間試行を重ねてきましたが、ご指導を得た植西様が窯開きでほんの一部を取り出してみた木炭をご覧になって、出来栄はよくできているようですと評価をいただきました。今年の原木は2年物やこの冬に伐採した生木を混



在した原木を使用いたしました。又、炭窯の中に水たまりができてしまうというアクシデントが発生しました。これまでとは全く違う悪条件の中での取組でした。

このような中で私たちが学んできた少しの経験を活かして、超ベテランの植西さんのご指導をいただきながら取り組んだ結果が、ほんの一部の出来高ではありますが、そこそこ良い炭に仕上がっているようです。3月6日の事務局会議で、炭の窯出しを3月9日（土）9時30分から行うことにしました。関心をお持ちの皆さんのご参加をお願いします。窯出し作業は午前中で完了できる見通しです。昨年は240 kgの生産でした。

●国交省淀川河川事務所・木津川希少種植生調査管理業務完了 報告書類製作作業 完了検査 3月6日

昨年担当者が毛馬出張所と淀川河川事務所を兼任する朴さんになってかなり複雑になり、朴さんが里山の会に何回もお越しいただき、事務処理にご指導を下さり、2年目になって大変スムーズになって報告処理が上手く流れるようになりました。3月6日の完成検査についても、一切の報告書について全ての書類モデルを示していただき、きれいに仕上げる事が出来ました。また検査官(副所長)の亀井様は以前、私が河川レンジャーであった折には、管理課に在職であった顔見知りでしたので、厳しい検査ではありましたが、説明を丁寧にお聞き下さって、了解を得ることが出来ました。里山の会からは2023年度の作業や刈草の運び出し、そして生育調査に頑張ってお下さった太田さん、森島さん、播川さん、有田さん、大村理事長が出席いただきました。無事に完了検査が合格になりました。各位に格別のお礼を述べたいと思います。特に出席いただけなかった、伊藤さん、山下さん、近藤さん、白木さん、仲沢さん達グループのたゆまぬ努力にお礼を申します。又、同志社大学サッカー部ボランティアの方々には、刈草収集に相当な協力をいただき、年内に画期的な運び出しを行っていただいた事にも心から“ありがとう”を述べさせていただきます。



こうした多くの方々のご協力とご支援によって、木津川では希少植物の保全管理が継続出来ます。画期的な成果だといえます。気候変動の激しく動く今、多様な植物の維持管理も影響を受けるものと考え、この調査管理維持活動は今後重要さを増してくると推測されます。力が続く限り、木津川の希少植物の維持にこれからも一層のご協力をお願いいたします。悪条件の元本当に有難うございました。

●「乙訓の自然を守る会」から学ぶ 学習講演会 3月7日(木) 13:30~15:30 京田辺市立中央公民館

乙訓の自然を守る会は総人数600人を会員とされているとお聞きしています。そして各方面を担当するグループがそれぞれに活動を展開されて非常に多忙な日常の中、万難を繰り合わせて時間を取っていただきました。一昨年NPO資格を承認されて一層躍進を目指しておられます。その中心柱として、理事長職を長年務めてこられた宮崎俊一様が、里山の会にお越し下さいます。私たちも高齢

集団化して苦勞をしています、ここの苦勞する課題をどのように突破されようとされているのかについてもご教授いただきたいと思います。

●大阪市中央公会堂「命をつなぐ水と流域 地球市民対話プロジェクト」（里山の会は第 27 回里山講演会と位置付ける）総参加 350 人 里山の会員出席者 7 人



大阪市中央公会堂



大集会室



木津川川ガキ団の発表

基調講演 1.尾田栄章さん（国交省元河川局長）、「川と水そして流域圏」行基の本願を世界へととしてお話された。近鉄奈良駅前行基の像がある。意味が分からなかったが彼の業績を聞いて納得した。また井戸水の利用者が一神教で川の水を利用する民族が多神教であると、そして水の働きが 5 つあって①運ぶ②溶かす③流れる④冷やす⑤うばう、とのお話をされた。

次に中村桂子さんからは「いのちの物語(生命誌)を支える水—長い時間と大きな広がりの中なかで—」としてお話があった。その中で大きな取組、小さな取組の提起が印象に残った。世界的な取り組みを検討することも大切ですが、自分が出したごみは各自で処分することも大事だと強調された。

続いて昼食時間に未来へつなぐ、子どもたちの取り組み発表として木津川川ガキ団の子どもたち 6 名が木津川で学んだことを発表した。ポスターパネルに絵や説明を手書きで作り上げ作文を元気よく読み上げて、川での楽しみや学びの面白さが伝わり非常に大きな拍手が響きました。

午後からは「大阪湾流域圏で考える水と環境生業文化」のパネルディスカッションがあり滋賀県の三和信彦氏、大阪公立大学の竹門康弘氏、続いて京都産業大学の鈴木康久氏の発言が澤井健二コーディネーターのもとで進められました。最後にパネルディスカッション(2)として古沢礼太氏によって福井昌平さん（日本イベント学会副会長）、稲本正さん（イベント学会中部地域本部）、そしてウスビ・サコさん（大阪・関西万博協会副会長）が関西万博を契機に、世界に何を発信するのか!!がありました。ウスビ・サコさんからは琵琶湖・淀川水系・水都大阪・日本酒の原点など、外国人から見ての近畿地方のすばらしさについて紹介がされた。

日頃は何も意識していなくとも、外国人から見ればこのように素晴らしいものが沢山あるのだと再認識しました。ちなみにウスビ・サコさんは数年前に京都市にある精華大学の学長さんを務めておられたということでした。



山村さんの活動紹介と
ポスターを持つ小川さんと金田さん



中川桂子さんを囲んで里山の会の皆さん

● 3 月の予定

学習会	3 月 7 日	13 : 00 ~	「乙訓の自然を守る会」から学ぶ
炭の窯出し	3 月 9 日	9 : 30 ~	朝日新聞・取材を希望
里山展	3 月 12 日	10 : 00 ~	京田辺市立中央図書館（～17 日）
農業機械の安全講習会	3 月 16 日	10 : 00 ~	講師：井辻三寛さん
馬坂川ごみ拾い	3 月 23 日	10 : 00 ~	
理事会	3 月 23 日	13 : 00 ~	議案製作 活動日程 新しい取り組み
親子花見乗船体験	4 月 6 日	10 : 00 ~	